

(様式14)

平成23年度第2回標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会
持続可能性及びエネルギー消費試験方法特設グループ会合議事録

1. 日 時 平成23年10月 7日(金) 10:00~12:20
2. 場 所 機械振興会館2階201-2協会B会議室
3. 出席者氏名 下記 計7名
(SC1分科会委員長) 藤本 聡 (コベルコ建機)
(委員) 此村 靖、尾上 裕、砂村 和弘 (日立建機)、出浦 淑枝 (コマツ)
(事務局) 西脇 徹郎、小倉 公彦 (協会)

4. 議題及び審議内容

10月17日~18日に、北京で国際会議が予定されているので、会議出席予定者などによる打合せを行った。

4.1 ISO/TC 127/SC 1/WG 6 (TS 11152 エネルギー消費試験方法) : 10月18日に会合予定であるのに、肝心の会議資料が、コンビナー兼プロジェクトリーダー(PL)の米国クロウエル氏から配付されていない問題があるが、日本の出席予定者の意思統一をはかるため、次のように打ち合わせた。

- **出席予定者 :** 藤本氏、尾上氏、砂村氏、出浦氏、計4名。
- **模擬動作条件か実作業条件か :** 日本は模擬動作条件を主張、海外勢は実作業条件を主張しており、日本は、従来、実作業条件に反対している経緯から、実作業条件そのものに関しては、あまり意見提出をしていないが、このタテマエを継続することとされた。
- **実作業条件の不具合な点に関して :** (上記の範囲内ではあるが) 実作業条件の不具合な点、例えば、ショベルの溝掘削では土留めなしでは溝の両側が崩れてしまうなどの点は、適宜指摘することとした。
- **模擬動作条件と実作業条件の対比 :** 協会機械部会及び製造業部会で(松本氏が)作成した、模擬動作条件と実作業条件との比較表(英訳提出済みか要確認)に基づいて、実作業条件は、むしろ使用者側での個別的な事柄である旨などを主張する。
- **国内指定制度に関して :** Regulation ではないが、公共調達で間接的に参照される技術基準、乃至、製品及び商用仕様書などの表示の対象となる低炭素型建設機械の認定制度について概要を発表して、この分野での我が国の先進性を主張する。

4.2 ISO/TC 237/WG 8 (ISO 10987 持続可能性) : 10月17日に会合予定、日本は DIS に反対投票したが、圧倒的多数で承認されており、会議で日本の意見の反映を図るため、次のように打ち合わせた。

- **出席予定者**：藤本氏、出浦氏、計2名。
- **(機械の) 経済性に関して**：他の項目はともかく、経済性に関して、現場条件により著しく相違することの他、労務費などは国によって相違し、価格に関しても、製造者と購入者との交渉など市場で決まるものである以上、この規格に従って製造者から使用者に提示するのは不適と考えられ、この項目に関してはあくまで削除を主張することとされた。なお、国内の損料表との関連の指摘があったが、公的な積算基準と、製造者の提示するものでは意味が違うとされた（ただし、国内事情の考慮をコメントしているので、その事例として説明の必要はありうる）。

以上

